



文部科学省 サキドリ情報交換会

5月20日(水)に文部科学省が主催するサキドリ情報交換会に Zoom で参加しました。いくつかの学校とグループ協議を行い、ほかの学校がどのような取り組みをしているかを知ることができましたので、ご紹介します。

学校名	主な取り組み内容	特徴・成果
白石市立白石中学校	白石イングリッシュ、探究的学習活動	姉妹都市交流を背景とした実践的英語教育と、数学を核とした教科横断的探究。
我孫子市立湖北小学校	40分授業、20分の「帯の時間(こほくタイム)」	午前中に5時間を実施。午後の放課後に余裕を持たせ、教師の研修時間を毎週確保。
東京学芸大学附属小金井小学校	学年ごとのボトムアップ型編成	全校一律ではなく、学年の教員と子供の個性を活かした独自の裁量時間を設定。
十日町市立田沢小学校	生活科・総合的な学習の時間への大胆な移行	国語の「書く」活動を生活・総合に振り替え。単学級の孤立を防ぐ教員間情報共有を重視。
佐久市立佐久城山小学校	40分授業 20分の帯の時間「私の時間」	子供が自ら活動内容(プレゼン、家庭科等)を決定。自己実現に向かう姿勢の育成。
仙台市立生出中学校	伝統芸能「神楽」の継承と世界発信	音楽等の時間を削減し、総合に上乘せ。生成 AI を活用し神楽を英語で世界へ発信。
新潟市立丸山小学校	昼休みを削った「縦割り班活動」	給食後の45分を交流・宿題に充て、放課後を延長。自治的な活動の場を創出。
福岡市立照葉はばたき小学校	「個人探究の時間」の新設と教員フィールドワーク	教科書を教える授業から「単元構成の改善」へシフト。教員の校外研修も推奨。

学校それぞれの実情や特性を生かした教育課程でした。すべての学校が40分授業を行っているわけではなく、英語や総合に力を入れるために、他教科を削って充当する、という学校も多かったです。「調整時数制度」が学校の実態によるものだけでなく、児童のやりたいこと、伸ばしたいことにも目を向けてさらに柔軟な教育課程の編成ができるようにすることが大切だとも感じました。(そのための時間の確保は難しいですが…)

その他、以下のような話題がだされました。

課題と今後の展望

- カリキュラム編成の負担: 年末の時数調整や時間割作成を担当する教務主任等への負担が大きい。
- 教員間・校内の共有: 日々の多忙感の中で、新しい取り組みを全職員で協議・共有する時間の確保が難しい。
- 評価のあり方: 業者テスト(ワークテスト)が単元ごとに購入できないなど、現行の評価ツールが柔軟な授業実施に追いついていない。AI 活用がカギか。

今後の方向性

- カリキュラム・マネジメントの実質化: 調整授業時数制度は、単なる時数操作ではなく「学校がどのような子供を育てたいか」という熱意を形にするためのシステムである。
- ネットワークの構築: 各都道府県に平均 5 校程度存在する「サキトモ(サキドリ研究校の仲間)」同士で、日常的に悩みを共有できるネットワークづくりを推進する。
- サポート体制の強化: 文部科学省による「サポートマガジン」の発行や、事例の可視化プラットフォームを通じて、継続的な伴走支援を行う



文科省 授業づくり note

サキドリの説明や、個別最適な学びと協働的な学びについてのいろいろな実践が載っていて、とても参考になります。今後、他校のサキドリの実践も載る予定だそうです。

Teamsの014 サキドリチャンネルにもリンクを貼りましたので、ご覧ください。

ブラッシュアップタイムの予定

月日	内容(予定)
5月28日(木)	・普通救命講習(5名の先生方が湖北中で参加) ・教育相談週間を優先してください。
5月29日(金)	・校内研修 15:00~ ALR にて「特別支援教育の理論研修」 講師:東葛飾教育事務所指導室 指導主事 北山先生 ・教育相談が入っている場合は、優先してください。
6月4日(木)	・オクリンクプラス研修(15:15) ピン集計など授業で使える機能を体験し、活用方法を考えます。
6月12日(金)	・校内授業研究 6年生 こほくタイム・6時間目 6年1組・2組・高学年プレイルームで保健体育の授業を展開 講師:我孫子市教育委員会 指導主事 牧口先生
6月18日(木)	・通知表作成研修 C4thの入力の仕方、効率的な作成方法 早い先生はこうやっている
6月25日(木)	・webQU 活用研修 webQUの結果の見方、学級の分析、活用方法